



# 農事普及だより

(5月号 平成28年5月1日～5月31日)

**（発行）**鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課  
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店  
西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室

**（編集）**西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



## \*天候\*

(平成28年4月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)  
天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。



## \*水稻\*

健苗の適期田植え、適正施肥で、「買ってもらえる米づくり」を進めましょう。

### 1. 育 苗

(1) 温度管理  
5月は気温が高くなり、ハウス・トンネル内の温度も高くなるため、積極的な換気に努める。  
降霜など低温が予想される場合は、被覆資材やストーブなどで保温する。

■温度管理の目安

葉 数	温 度
出芽前～1.5葉	日中30℃以下、夜間5℃以上
1.5葉～3.0葉	日中25℃以下、夜間5℃以上
3.0葉～3.5葉 (田植え)	日中20℃以下、夜間5℃以上 田植え5日前頃には、霜注意報発令時や強風の時以外は、できるだけ夜間も外気に慣らし、丈夫な苗に仕上げる。

(2) 水 管 理

ア ポイント  
・かん水する目安は、床土が乾き、苗の葉が巻き始めた頃。　・かん水は午前中に行い、箱底まで届くようにたっぷりかける。  
イ 留意点  
・ハウス内が過湿にならないよう注意する。　・機械的に毎日水をかけると根の発育不良、軟弱苗の原因となる。

(3) 追 肥

・葉色が淡くなったら場合は、1箱当たり硫安5gを水500mlに溶かして追肥し、よく葉についた肥料を水で洗い流す。  
・なお、追肥作業は、かん水を兼ねて、肥料ヤケが起きにくい早朝や曇天に行うのが望ましい。

### 2. 本 田

(1) 畦畔の補強

・畦畔にネズミ穴などがあると水持ちが悪くなり、除草剤の効果が劣ったり、低温時の深水管理が十分できなくなるので早めに補強する。

(2) 基 肥

・昨年、霜か倒伏したり、いもち病が発生した水田では、窒素量を減らす。

・窒素量が多くなると、食味・品質の低下や倒伏、いもち病等の原因となるので地帯別、品種別施肥基準を遵守する。

■施肥量（窒素分量）の目安（中苗移植）

品種	施肥体系	窒素総量(kg/10a)	基肥(kg/10a)	追肥(kg/10a)
つがるロマン	表層1回追肥	6～8kg	4～6kg	2kg以内
まっしきら	表層1回追肥	6～9kg	総量の7～8割	総量の2～3割
青天の霹靂	表層2回追肥	6～9kg	総量の8割	1・2回自ども2割

注) 1 満開日とは7～8割が開花した日で、花びらの散り始めてもある。

2 マメコバチに対して害作用がないので、マメコバチ導入園で利用しても良い。

3 ニツバチ導入園で石灰硫黄合剤を利用する場合は、散布前にニツバチの巣箱を回収する。

4 エコリーキーは、花そう葉又は新梢幼葉の葉縁部に褐変（葉焼け）症状が発生する場合がある。

(3) 代 か さ

・高低差による生育・除草ムラが生じないよう、均平に仕上げる。

・稻わらを引き込んだ水田や、田畠輪換田等の作物残渣がある水田では、稻わらの埋め込みをよくするため、代かき時に水を入れすぎないようにする。

(4) 田 植 え

・日平均気温が13℃以上になるときを目安とする。(平年で5月13日以降(五所川原市アメダス値))

・代枯れ防止と活着促進のため、強風の日は避け、温暖な日を選ぶ。

(5) 田植え後の水管理

・田植え後は直ちに水を入れる。

・初期生育促進のため、低温時は苗が冠水しない程度の深水管理、高温時は浅水管理とする。

・日間止水・夜間かいかいを基本とし、掛け流しはせざ、水温を上げるようにする。

(表) 水管理の目安

生育期	暖かい日の水深	寒い日の水深
分けつけ期	3cm程度の浅水	5～6cm程度の深水

(6) 除草剤の使用方法

・除草剤は、前年発生した雑草を考慮して選び、使用基準を守る。

・除草剤を適正に使用しても特定の草（アセバ、ホタルイ等）が大量に残る水田では、抵抗性雑草が発生している可能性があるので、これらに効果のある除草剤を選択する。

・初期+中期の体系処理の場合は、中期剤の処理が遅れないように適期に散布する。

・河川等の水質を保全するため、散布後7日間は絶対に落水・掛け流しをしない。

(7) 病害虫防除

ア イネミズリウムシ

移植前や移植時に防除をしなかった場合は、発生に応じて防除する。発生が多い場合には6月上旬頃に水面施用剤を散布する。この時期の防除によりイネドロオイムシも防除できる。

イ 葉いもち

取り置き苗は葉いもちの発生源となるので、補植が終わったら、直ちに処分する。

# \*お問い合わせ\*

黒星病重点防除時期の「開花直前」と「落花直後」の散布間隔は10日以内を遵守。

霜害防止対策の徹底を。

県生育観測ほ（板柳町高増）のふじの発芽日は平年より6日早い4月3日、展葉日は平年より5日早い4月14日であった。開花予想は、気象庁の1か月予報によると気温が平年より高いことから、今後、日平均気温が平年より1℃高く推移した場合、ふじの開花日は板柳町で5月4日頃（平年5月9日）と予想される。

### 1. 霜害防止対策

開花前後は最も低温に弱い時期のため、霜注意報が出されたら、霜害防止対策を確実に実施する。

(1) 霜害発生危険度

花蕾着色期で-2℃、開花始め～幼果期で-1.5℃くらいの低温に約60分遭遇すると被害が出始める。

降霜は、晴天無風で午後7時の気温が6℃以下の日の翌日朝に発生する頻度が高い。

(2) 燃 煙 法

霜注意報が出たら、自園の気温の動きを観察し、0℃になったら燃焼資材に点火する。

■燃焼法による防止

種類	利用方法
A重油オイル缶	4リットル缶を利用する場合、10a当たり30缶以上を配置する。
霜カット	あかくず：灯油=2：1（容量）の割合で混ぜたものを2kgずつ袋に詰め、10a当たり40～60個を配置する。

※燃焼法を行う際の注意事項

- ・灯油の保管量が200～1000㍑：少量危険物貯蔵届出書の提出が必要
- ・〃 1000㍑以上：危険物取扱者の資格が必要
- ・所轄の消防署に「火災と紛らわしい煙又は火災を発する恐れがある行為の届出書」などを届出する。

(3) 送風法（防霜ファン）

防霜ファンを設置している園地では、ファンの始動温度を2℃に設定しておく。

寒気を伴ったときや少し低温になったときは、防止効果が低いので燃焼法を併用する。

幼果期に被害を受けた年もあったことから、結果後でもファンのスイッチは切らない。

(4) 事後対策

開花期までに霜害にあった場合は、結実量を確保するため、必ず人手授粉を実施する。その際、めしべの被害程度を確認して授粉する。

2. 人手授粉による結実確保

マメコバチ導入していない園地では、安定した結実量を確保するために人手による授粉を徹底する。また、マメコバチ導入園においてもマメコバチの数が少ない場合や不順天候が続く場合には、人手による授粉を行って結実確保に努める。

3. 摘 花・摘 稲

良品安定生産のためには早期適正着果が重要であるので、摘花を積極的に実施する。ただし、降霜常襲地帯や開花期に不順天候が予想される場合は、一輪摘花の実施や摘花剤の使用を控え、えき芽花の摘み取りにとどめる。

(1) 摘花

①人手による摘花  
弱い花そうやえき芽花等の不要な花そうは、全花摘み取る。

②摘花剤の利用

結実が十分確保される見込まれる場合は、石灰硫黄合剤又はエコリーキーを利用する。使用方法は下表のとおりである。

■石灰硫黄合剤及びエコリーキーの使い方

薬剤名	散布時期	本剤の使用回数	成分総使用回数	希釈倍数	10a当たり散布量
石灰硫黄合剤	満開後 (頂芽花の満開日とえき芽花の満開日)	2回	—	100～120倍	350㍑以上
エコリーキー	満開日 追加散布を要する場合はその2～3日後に1回	2回以内	2回以内	100～150倍	300～600㍑

注) 1 満開日とは7～8割が開花した日で、花びらの散り始めてもある。

2 マメコバチに対して害作用がないので、マメコバチ導入園で利用しても良い。

3 ニツバチ導入園で石灰硫黄合剤を利用する場合は、散布前にニツバチの巣箱を回収する。

4 エコリーキーは、花そう葉又は新梢幼葉の葉縁部に褐変（葉焼け）症状が発生する場合がある。

(2) 摘 果

①人手による摘果

摘果は早いほど良いが、実まりが判別できない時期（落花10日～15日後頃まで）にはまず一つ成り摘果を行う。

ただし、つがる、デリシャス系など年により早期落果の多い品種は、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

②薬剤による摘果

ふじ、王林、陸奥、北斗、千秋、さんさ、早生ふじ、トキを対象に各品種の満開後2週間頃（ふじでは横径が10mmくらいの時）、紅玉は満開後3週間頃（横径が16mmくらいの時）にミクロテラボン水和剤85（1,200倍、展着剤加用）を、果実に十分かかるよう10a当たり350リットル以上散布する。

■標準的な着果程度

品
---

ル)を散布し、新梢での被害を防止する。

## 3. ベト病対策

発生が多い園地では、新梢伸長期（約20cm）にジマンダイセン、開花10日前（6月上旬）にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40を選択する。

# \*おとう\*

霜害防止対策の徹底と結実確保に努めましょう。

## 1. 霜害防止対策

りんごと同様、霜害対策には万全を期する。

## 2. 結実確保

毛はたきやマメコバチ等による授粉を積極的に行う。毛はたきによる授粉は、5分咲き頃と満開期頃に少なくとも2回は行う。

## 3. 薬剤散布

散布時期	基 準 薬 剤	散 布 量 (kg/10a)
満開5日後 (5月上旬)	パズワード顆粒水和剤 又はオシリーワンフロアブル 又はラリー水和剤 又はオーシャイン水和剤	1,500倍 2,000倍 2,000倍 3,000倍
満開12日後 (5月中旬)	オーソサイド水和剤80 ダイアシン水和剤34	800倍 1,000倍
満開25日後 (5月下旬)	オーソサイド水和剤80 ダイアシン水和剤34	800倍 1,000倍

\*農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



## 1. 灰星病対策

花腐れ防止のため、満開5日後の薬剤散布を遅れないように適期に行う。雨が多い場合は晴れ間を見て散布する。

## 2. オウトワハマタラニバエ対策

発生が多い園地では、満開12日後と満開25日後にダイアシン水和剤34の代わりにアディオンフロアブル（2000倍）を使用する。

## 3. 薬剤の使用上の注意

パズワード顆粒水和剤はぶどうの「スチューベン」、「パッファロー（アーリースチューベン）」、「ポートランド」など一部の品種で、軽微な薬害を生じることがある。

# \*ブリーベリー\*

園地を見回り、清掃と害虫防除に努めましょう。

## 1. 病害虫防除

(1) 園地の除草に努め、病害虫の発生源をなくす。  
(2) 害虫は見つけ次第、捕殺する。

## 2. 土壌の乾燥防止

(1) 稲わらや粗糞、木材チップ、おかくさを株元に10~15cm程度の厚さで敷いて抑草し、土壌の保水力を高める。  
(2) 乾燥しやすい畑ではかん水を行う。降雨がない場合は、3~4日に1回程度、十分にかん水する。

# \*野菜\*

霜の恐れがある場合は、被覆等により霜害防止に努めましょう。  
寒暖の差が大きい時期なので、こまめな温度管理を心掛けましょう。

# トマト

## 1. 定植後の管理

(1) 定植後、活着までに日数を多く要し、葉露が発生しない場合は、株元に手かん水を行う。  
その時に葉色が淡い場合はかん水を兼ねて液肥を株元に施用する。

■追肥肥料例

肥料名	倍数	1株当たり	必要量/kg/10a	回数
OK-F-1	700倍	300cc	水600kg:肥料857g	3~4日おき

(2) 根張りを良くするため、かん水は控えめに行う。

(3) ハウス内の温度は昼間25℃前後で管理する。最低気温は15℃以上を目標とし、夜間冷え込むことが予想される場合は、被覆資材や暖太郎等を設置し気温の低下防止に努める。

(4) 1段花房の第4花が咲いたらトマトーンを80~90倍で処理する。

(5) わき芽は10cm程度伸びてから摘み取る（特に桃太郎セレクト）。

## 2. かん水・追肥

試しかん水は、2段花房のトマトーン処理後に1株1kgを目安に行う。

本格的なかん水・追肥は、3段花房の開花期から行うことし、1回当たりの追肥量は窒素成分で約0.5kg/10a以内とする。追肥による根焼けを防止するため各液肥の基準希釈倍数は遵守する。

# メロン

## 1. 本畠の準備

(1) 定植の2週間前に堆肥・改良資材・基肥を施用し、耕起・整地する。  
(2) 定植7~10日前に畦立て・マルチングを行い、地温（深さ15cmで18℃以上）及び土壤水分を確保しておく。

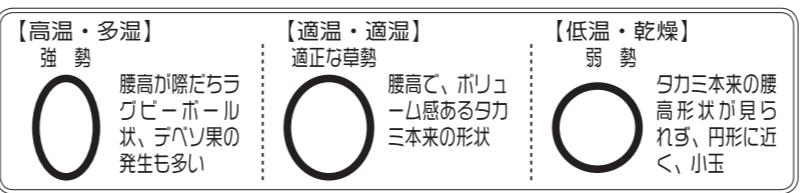
\*雑草の抑制には、畦とマルチの隙間を少なくし、密着させると効果的。

## 2. 定植時の留意点

(1) 定植時には、いわゆる「活着水」として、ポットに十分に温めた水を含ませると良い。また、活着水に液肥を入れると発根促進に効果的である。  
(2) 定植作業は朝から、夕方まで（地温が下がり始める前まで）とする。  
(3) 根鉢を崩さないようにポットから出し、深植えにならないように鉢土はマルチ面より高く植える。株元に土を寄せない。

## 3. 定植後の管理

(1) 活着後、生育の揃った子づる二本立てるところ。  
※事前に本畠を見回り、子づるの生育を確認し、揃った2本を残す。  
この際、株元の葉や孫づるなど、不要な側枝も除去し、整枝作業終了後は薬剤散布をすること。  
(2) 定植後は最高気温28~30℃、最低気温12~15℃を自安に、トンネルの開閉、保温資材（保温キヤップ等）の活用でこまめな温度・湿度管理を行う。  
※最高位葉展開時、その6~7節上の花芽が分化開始  
タカミの場合、子づるの5葉展開時から開花・結実までの管理が重要  
(3) 花芽発育時の条件と果形との関係（タカミ）



## 1. ほ場準備

転作田では排水対策として、ほ場周囲に明きよを掘る。  
水稻作から大豆作に切り替える時は苦土石灰などを施用し、pH6.0~6.5を目指し土壌酸度を矯正する。  
水分が多い状態での事前耕起は、ほ場の物理性が悪化するので、乾燥した状態で作業し、回数も量小限に抑える。  
温害を受けやすいほ場では、畦立ては種等で被害を軽減する。

## 2. は種期・栽植密度

は種適期は5月中旬~下旬。栽植密度は畦幅70cm前後、株間15cmの2本立てを基本とする。（は種量は10a当たり7~8kg）  
は種直後の多雨は、出芽率の低下や、初期生育の不良を招くので、気象条件に注意しながら作業する。  
やむを得ず、は種が遅れる場合は畦幅、株間を詰め、は種量を増やす。

## 3. 施 肥 量

基肥は、10a当たり窒素成分量で2~3kgを基準とし、土壤条件、連作等を考慮し増減する。

## 4. 種子消毒とわい化病の予防

必要に応じて、下記の剤で塗沫処理を行う。

剤 名	鳥害防止	紫 斑 病	わい化病
キヒゲンR2フロアブル	○	○	×
ク ル - ザ - F S 3 0	×	×	○
ク ル - ザ - M A X X	○	○	○

○：効果あり ×：効果なし

注）クルーザーFS30は鳥害防止効果がないので、鳥害が予想される場合は事後にキヒゲンR-2フロアブルの塗沫処理を行うこと。

## 5. 根粒菌の接種

大豆栽培初年目のほ場は、根粒菌の着生が悪く生育に影響するので、種子消毒後に市販の根粒菌を粉衣する。

## 6. 雜草対策

は種後速やかに土壌処理除草剤を散布する。ほ場の細土が粗い場合や、ほ場表面の水分が低い場合は効果が劣るので注意する。

# \*小麦\*

## 1. 追 肥

一穂粒数を確保するため、2回目の追肥を5月中旬頃の減数分蘖期（止め葉が全体の4~5割開いた時期）に行う。  
追肥量は、10a当たり窒素成分で2kgを基準とし、生育に合わせて増減する。

## 2. 排水対策

転換畠では出穗期以降の温害を防止するため、明きよの設置や排水溝の点検を行う。

## 3. 病害虫防除

赤かび病は、開花期から乳熟期にかけて、気温が高く温潤な天気が続くと発生が多くなる。そのため、開花始めから開花期に1回目、その後10日後に2回目の防除を行う。赤かび病に感染すると収量や品質が低下するばかりではなく、赤かび病のかび毒（テオキシニペノール）が付着した小麦を食用にすると下痢や嘔吐などの中毒症状を起こす場合があるため、出荷できなくなる。  
また、茎数が多く、草丈が伸びているほ場では、うどんこ病の発生が予想されるので、病害虫発生予察情報等に注意し、適期防除に努める。

# \*花き\*

温度変化が激しい時期です。適正な温度管理に努めましょう。

# キク

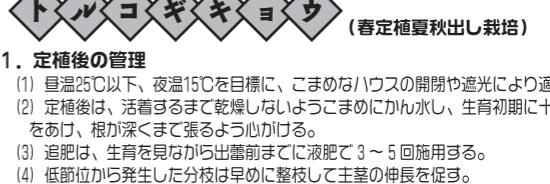
## 1. 育苗管理及び定植

(1) 8月出し無摘心栽培、9月出し摘心栽培は、6月が定植適期となるため、出荷時期に合わせて押し芽作業を行う。  
(2) 定植苗は15~20日育苗を基本とし、根長が1~2cmになったら定植する。特に小さなセルトレイで育苗した場合は、苗が老化しないよう注意する。  
(3) 施肥は、全量で窒素成分1~2kg/aを基準とし、基肥として6~7割を施用する。施肥前に土壤診断を行い、それに合わせて施肥量を調整する。追肥は、葉色や生育の状況に応じて適宜行う。  
(4) 温度変化が激しい時期なので、低温時には保温を行ななど、こまめな温度管理に努める。

## 2. 病害虫防除

(1) 白さび病は、温度20℃前後の多湿状態で発病しやすい。施設内の換気に努め、親株管理の段階から薬剤による予防散布を行う。  
(2) ハモグリバエ類、アザミウマ類、アブラムシ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

## 3. 定植後の管理



## 1. 定植後の管理

(1) 昼温25℃以下、夜温15℃を目標に、こまめなハウスの開閉や遮光により適温管理に努める。  
(2) 定植後は、活着するまで乾燥しないようこまめにかん水し、生育初期に十分な発根を促す。草丈15~20cm以降は徐々にかん水の間隔をあけ、根が深くなるよう心がける。  
(3) 追肥は、生育を見ながら出蕾前まで液肥で3~5回施用する。  
(4) 低節位から発生した枝芽は早めに整枝して主茎の伸長を促す。

## 2. 病害虫防除

(1) アザミウマ類、アブラムシ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。



春の農作業安全運動実施中！

期間：平成28年4月1日～5月31日

5~8月は「農薬危害防止運動」実施期間です

○安心な農産物生産のため、農薬使用状況を必ず記帳しましょう。  
○農薬使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。  
○短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農薬は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。

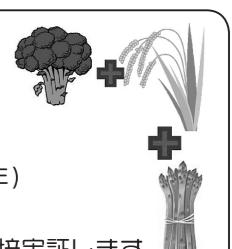
## 稻作農家の皆さんへ 西北地域県民局地域農林水産部からのお知らせ

農業経営のステップアップを進めてみませんか

農業経営の安定を図るために、高収益作物の導入が不可欠です。  
西北地域で産地化されているネギ、ブロッコリー、アスパラガス、スナップえんどうなどの露地野菜を経営に取り入れ、農業経営のステップアップを進めてみてはいかがでしょうか。当県民局では、野菜栽培に向けて栽培指導や経営改善へのアドバイスなどをいたします。

## ◆平成28年度の計画

1. 野菜導入に向けた取組
- (1) 稲作農家への情報提供（4~12月）
- (2) 野菜栽培講習会の開催（5~11月）
- (3) 導入野菜の栽培指導（6~10月）
- (4) 野菜栽培マニュアル、農業経営モデルの紹介（通年）
2. 新品目野菜の栽培実証
- 新たな野菜として、ズッキーニなどの西洋野菜を栽培実証します。



野菜栽培に向けた相談会への参加など、詳しく内容を知りたい方は、西北地域県民局地域農林水産部・りんご農産課までお問い合わせください。電話 0173-34-2111（内線：239）</p